

高齢者が楽しく過ごせる街を目指して

高齢化社会に向けての課題・・・生活のための移動、交流のための移動

私たちの街は高齢化が進んでいます。元気な方もいらっしゃいますが、中には体力の衰えにより日常の移動が困難な方も多数おられると思います。地域団体に構成する「栄駅周辺住民の足を考える会」（以下 足を考える会）は、高齢者の日常の移動について少しでも改善するめに活動をしています。活動内容は、会の中での意見交換、アンケート等による住民の意識調査、類似他地区の状況調査などなどで、行政および神姫ゾーンバスのサポートを得て行ってまいりました。その延長線上に神姫ゾーンバスの協力を得て、10系統「さくら・あきばループ」の運行を実施できました。



10系統「さくら・あきばループ」の本運行を令和5年5月に開始して、24 か月になります、この間約 13,236 名の方に利用していただきました。また、この間の延べ運行本数は1,924 本となります。以下に今までの利用者の推移を示します。グラフのとおり、R6年度に利用者は大幅に利用者が減少しており、かなり厳しい状況になっています。減少の原因はさまざま考えられますが、10系統の安定した運行のためには乗り支えることが必要と思います、せっかく実現した10系統を維持するためにも皆様の協力をお願いします。



足を考える会は、10系統の運行維持のほか、将来必要な生活に密着した小回りの利くバスの運行、シニアカーなどの新しい移動手段の動向、高齢者に適した道路環境（段差の改善）など調査・検討・改善・実現に向けて関係機関と連携しながら進んでいきたいと思っています。

足を考える会 会長 藤見佳男

足を考える会をサポートして下さる方々から

神戸市西区長 豊永太郎

平素より市政・区政に格別のご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。
住民の生活にとって「地域の足」はなくてはならない存在です。通勤や通学、買い物だけでなく、地域コミュニティのつながりを支える重要な役割を担っています。
神戸市では、路線バスの運行維持や地域コミュニティ交通の導入に取り組んでいるほか、モノの運搬によりバス事業者が新たな収入源を得ることで路線を維持する「貨客混載」を進めています。月が丘や秋葉台エリアでも、地域のご協力のもと、西神中央の商品をバスに乗せて地域福祉センターまで運ぶ予約販売を実施しています。



神戸市西区長 豊永太郎

「栄駅周辺住民の足を考える会」におかれましては、住民が住み慣れた地域に住み続けられるよう、地域の足について様々な議論を重ねてこられました。「さくら・あきばループバス」の本格運行は、地域の暮らしを支えるために尽力された皆様の活動の結晶です。

これからも地域の足を維持していくため、地域の皆様と運行事業者と協働して取り組んでまいりますので、今後ともご協力賜りますようお願い申し上げます。

平素は、新規ゾーンバスをご利用いただき誠にありがとうございます。

これまで足を考える会の皆さまとは、地域全域に渡る住民の移動課題と解決方法に向けた話し合いを重ねて参りました。特に高齢化に関する移動課題が多く挙げられ、解決に向けて一つ一つ取り組む中で10系統の「さくら・あきばループバス」の運行が実現いたしました。

これには、地域の皆さまとの意見交換や地域の皆さまが行動を重ねた結果、実現した運行路線となっております。地域課題の解決に向けて大切なのは、人と人との繋がりを始め全員同じ方向に向かって本気で実現したいとの強い思いと、そこから湧き出る行動や姿勢を目的のために継続することが大切です。地域と事業者とが共に支え合い、お互いを尊重し合うことで良き未来へと繋げていく。

私たちは、これからも皆さまと共に考え”住みたい・住み続けたい”街とするために交通事業者として地域に貢献してまいります。

コラム：シニアカーをご存知ですか？

スクーターに似たハンドル付きの3輪または4輪の乗り物で、電動車いすより大型です。主に高齢者のスーパーや通院時などの私生活の移動などに使用されます。平均的な走行距離は20～30km、スピードは時速1～6km程度です。道路交通法では歩行者として扱われるため、運転免許は必要ありません。シニアカーは介護保険の適用があり、要介護認定を受けた方は安い自己負担で利用できる可能性があります。



今後の取り組み

1. 既存交通機関利用促進

神姫ゾーンバス 10 系統、11 系統は地域内巡回バスとして運行されていますが利用者が少なく存続が危惧される状態にあります。ただ、今後の地域の高齢化を考えると地域内巡回バスの必要性はますます高まっていくと思います。この系統の利用者を増やすために、地域の皆様と神姫ゾーンバス様とで運行ルート、運行時間帯の見直しなどを行うとともに、将来展望（例えば、小型バスによる生活道路での運行他）などについて考えていきたいと思っています。

2. シニアカーの取り組み

団塊の世代（昭和22年から25年生まれ）が免許返納をされた場合

- (1)日常生活に必要な移動はシニアカーで行い、可能な限りこの街に住み続ける。
- (2)お子様など若い方と同居されることにより、日常生活に必要な移動が軽減される。
- (3)この街を出て高齢者にとって利便性の高い地区へ転居する。
- (4)その他

の選択があります。地域の高齢者がどの選択を行うかは、過去に行ったアンケートでも傾向をつかむのは困難でした。足を考える会としては(1)を選択する方が多くなると想定し、シニアカーが少しでも安心して走れる地域インフラの構築が必要と考えています。

3. 地域の力の結集

足を考える会は、秋葉台自治会、月が丘自治会、押部谷東ふれあいのまちづくり協議会、桜が丘ふれあいのまちづくり協議会、月が丘ふれあいのまちづくり協議会の5団体で構成されています。2017年度の勉強会から始まり今に至っているわけですが、考える会の会合などを通じていつも悩んでいるのは「地域の皆様の思いを把握できているのか」ということです。もし私たちの活動に関心をお持ちであれば、所属団体（自治会またはふれあいのまちづくり協議会など）を通して意見を伝えていただければ本当に助かります、また所属団体を通して足を考える会の活動に参加していただき、共に高齢者の移動インフラの改善に向けての意見交換と活動が出来れば幸いです。

問い合わせ先 皆様の所属団体、または事務局の「桜が丘ふれあいのまちづくり協議会」（電話：078-995-2298）

ホームページ <https://a4a4.stars.ne.jp/ashi.html>

